

株主のみなさまへ



第164期 中間報告書

2018年4月1日から2018年9月30日まで

証券コード：4046

<http://www.osaka-soda.co.jp/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.osaka-soda.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をお持ちの株主さまへ

当社は、1単元(100株)に満たない当社株式を所有されている株主さまの便宜をはかるため、「単元未満株式の買増・買取制度」を実施しております。

お手続きなどの詳細に関しましては、証券会社にて株式を管理されている場合はお取引先の証券会社に、特別口座にて株式を管理されている場合は、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

当社グループをより知っていただくために、ホームページもご活用ください。

- 最新の情報はこちらをご覧ください。
ホームページアドレス
<http://www.osaka-soda.co.jp/>



トップ
ページ

Something Better with Chemicals

化学で笑顔を
育む会社

すごソダ



株式会社 大阪ソーダ

本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座1-12-18
TEL.06-6110-1560



株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、第164期中間期(2018年4月1日から2018年9月30日まで)の決算を行いましたので、ここに事業の概況についてご報告申し上げます。

2018年12月

代表取締役
社長執行役員 **寺田 健志**

事業の経過およびその成果

当中間期におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調が継続しているものの、豪雨や震災による消費や企業活動の停滞、原料価格の上昇による企業収益の圧迫や通商問題の動向が世界経済に与える影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、本年4月よりスタートさせた新中期経営計画「BRIGHT-2020」で、「新成長エンジンの創出」「海外収益基盤の確立」および「事業構造改革の完遂」を3つの基本方針として掲げ、利益重視の経営へのシフトをより一層進めてまいりま

した。基礎化学品では、原燃料価格の変動に対応した価格是正に早期に取り組むとともに、自社開発の改良型電解槽導入などのコストダウンを進めてまいりました。機能化学品では、「海外収益基盤の確立」に向けて合成ゴムおよび合成樹脂、アリルエーテル類などの主力製品のシェア拡大を図りつつ、新事業領域であるカラム装置ビジネスの拡大や、高薬理活性医薬品分野への参入、昨年のアクリルゴムに続いて4月にノンフタレート型アリル樹脂「ラドパー」を上市するなど、「新成長エンジンの創出」を推進してまいりました。また、本年7月に、新規テーマ探索、立案、管理、スケールアップ、市場開拓までを一元的に行う新規事業推進本部を新設し、新規製品の上市化加速に向けて体制を一新するとともに、IoT、AI導入により全工場の生産性向上に着手するなど「事業構造改革の完遂」に向けて取り組んでまいりました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は、526億7千4

百万円と前年同期比9.8%の増加となりました。また、利益面におきましても、営業利益は43億1千6百万円と前年同期比25.0%の増加、経常利益は49億7百万円と前年同期比28.8%の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は33億5千5百万円と前年同期比34.5%の増加となり、売上高、各利益とも過去最高を達成いたしました。

なお、中間配当金につきましては、1株あたり30円とさせていただきます。

今後の見通し

今期の見通しにつきましては、売上高1,070億円、経常利益92億円を見込んでおります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



OSAKA SODA

グループ企業理念

高い志をもち 独創的なものづくりで 豊かな社会の実現に貢献します

基礎
化学品

売上高 **243億1千4百万円** 前期比**13.7%**増加 ↑

クロール・アルカリは、需要が堅調に推移したことに加え、かせいソーダの価格改定も進んだため、売上高が増加しました。

エピクロルヒドリンは、国内外の需給環境がタイトに推移するとともに、原燃料価格の上昇に対応した価格改定を実施したため、売上高が増加しました。

以上の結果、基礎化学品の売上高は243億1千4百万円と前年同期比13.7%の増加となりました。

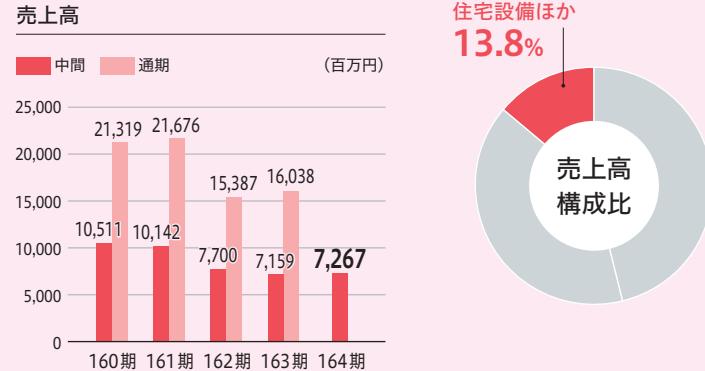


住宅設備
ほか

売上高 **72億6千7百万円** 前期比**1.5%**増加 ↑

エンジニアリング部門で国内顧客での工事案件が増加しました。

以上の結果、売上高は72億6千7百万円と前年同期比1.5%の増加となりました。



機能
化学品

売上高 **210億9千2百万円** 前期比**8.5%**増加 ↑

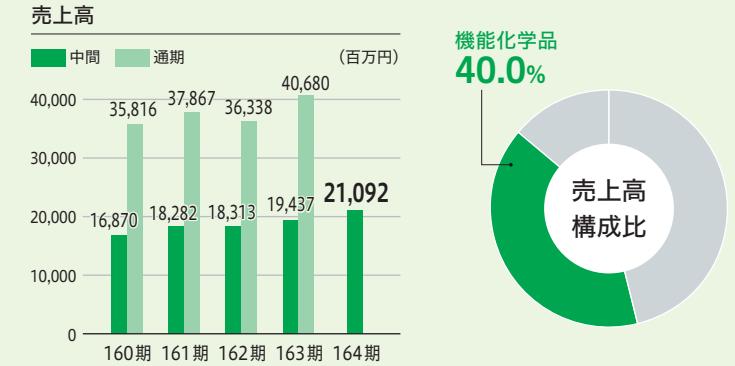
アリルエーテル類は、シランカップリング剤用途向けを中心に、国内外ともに販売数量が増加したため、売上高は増加しました。

ダップ樹脂は、中国での在庫調整の影響があり、輸出が鈍化しましたが、国内のUVインキ用途向けは堅調に推移しました。

エピクロルヒドリンゴム関連は、国内自動車用部品向けが堅調に推移するとともに、アクリルゴムでは、国内外の自動車部品用途向けに新規採用が進みました。

医薬品精製材料は、インド向けのバイオ医薬品精製用途向けが好調に推移したことに加え、カラム・分析装置事業では、中国向けカラム販売ならびに韓国向け装置販売が好調に推移しました。

医薬品原薬・中間体は、国内向け動物薬原薬、新薬メーカーからの製造受託、ジェネリック医薬品原薬の輸



入販売が堅調に推移したことに加え、高薬理活性対応設備を用いた新規案件の受託を開始しました。

電極事業は、電子部品および電池などに使用される銅箔用電極の海外での需要が増加したことにより、売上高は増加しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は210億9千2百万円と前年同期比8.5%の増加となりました。

大阪ソーダグループのセグメントと主要製品

●セグメント

基礎化学品

●主要製品

かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、塗料原料、接着剤原料など

機能化学品

アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、アクリルゴム、ダップ樹脂、ノンフタレート型アリル樹脂、高純度エポキシ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、医薬品精製材料、分析用カラム・装置、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、グラスファイバー、資源リサイクルなど

住宅設備ほか

ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設など

合成ゴム、合成樹脂の新設備稼働

当社ではアクリルゴム、ノンフタレート型アリル樹脂などの新製品設備の稼働を昨年より相次いで開始しました。これらの新製品を今後の新たな収益の柱となるよう育成してまいります。

ラクレスター アクリルゴム「RACRESTER™」

アクリルゴム「ラクレスター™」は、高い耐熱性と耐油性を持ち、近年、環境意識の高まりを背景に増加しているターボ車のエンジン周りなど厳しい環境下で使用されています。また、低温特性や耐金属腐食性などを備えた特殊グレードを開発し、お客様の高度な要求に対応しています。



用途 自動車エンジン周り部品



アクリルゴム製造設備

ラドパー ノンフタレート型アリル樹脂「RADPAR™」

ノンフタレート型アリル樹脂「ラドパー」は、ダップ樹脂と同様に速乾性を有し、UVインキの原料として印刷のスピードアップによる生産性の向上に貢献しています。また、溶解性に優れ、プラスチック基材向けなどに用途の幅が広がっています。



用途 プラスチック容器およびフードパッケージ用UVインキ



ノンフタレート型アリル樹脂製造設備



蛍光管リサイクルで 循環型社会の形成に貢献

現在、わが国では使用済み蛍光管などから水銀を除去する取り組みが強化されています。大阪ソーダグループの(株)ジェイ・エム・アールでは環境にやさしい湿式法で水銀を除去・回収し、ガラス、金属・アルミなどに再資源化することで、循環型社会の形成に貢献しています。



工場全景



直管型蛍光管破碎処理機
(カット&クラッシャー)



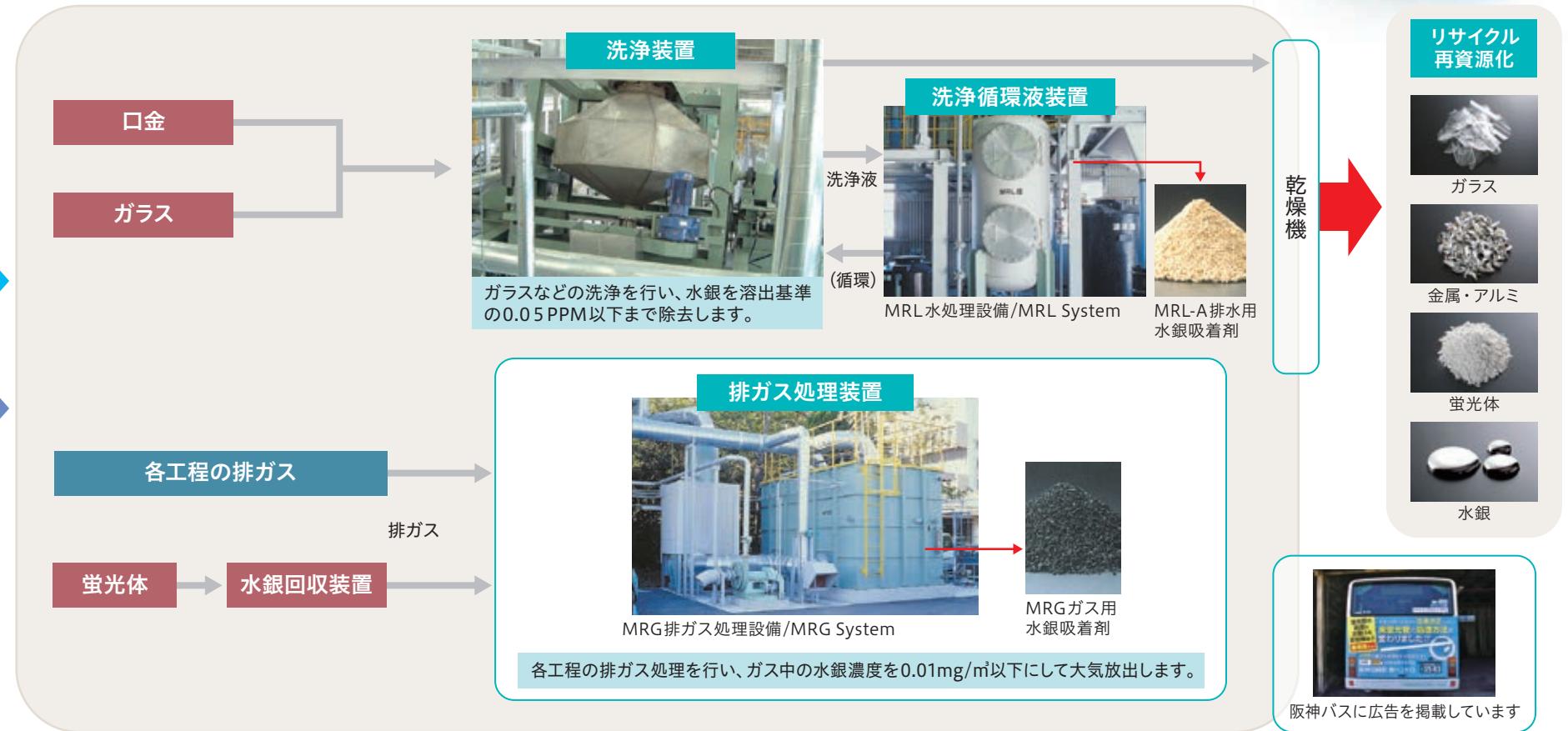
蛍光管



水銀ランプ・放電管



丸管処理機



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期末 (2017年9月30日現在)	当中間連結会計期末 (2018年9月30日現在)	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (2018年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	70,874	65,991	66,060
固定資産	45,406	48,928	48,959
有形固定資産	22,088	22,761	23,595
無形固定資産	1,218	1,443	1,599
投資その他の資産	22,009	24,724	23,764
資産合計	116,281	114,920	115,020
負債の部			
流動負債	32,830	32,842	33,206
固定負債	26,094	17,118	20,859
負債合計	58,924	49,961	54,066
純資産の部			
株主資本	49,556	56,209	52,938
その他の包括利益累計額	7,799	8,749	8,015
純資産合計	57,356	64,958	60,953
負債純資産合計	116,281	114,920	115,020

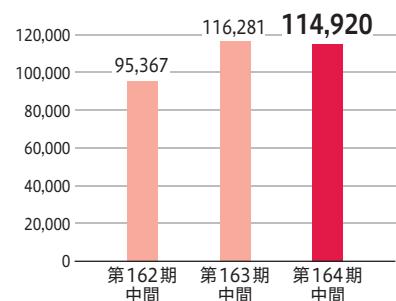
『税効果会計に係る会計基準』の一部改正等を第1四半期会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

中間連結損益計算書(要約)

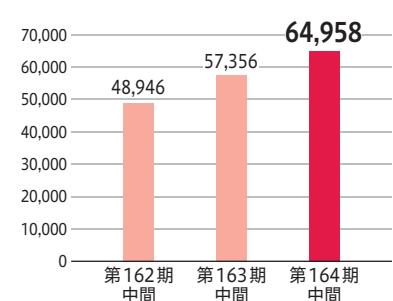
(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自 2017年4月 1日 至 2017年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2018年4月 1日 至 2018年9月30日)	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)
売上高	47,989	52,674	101,231
売上原価	38,682	41,644	81,417
売上総利益	9,306	11,029	19,814
販売費及び一般管理費	5,855	6,713	12,495
営業利益	3,451	4,316	7,318
営業外収益	485	683	500
営業外費用	127	92	333
経常利益	3,809	4,907	7,485
特別利益	106	137	106
特別損失	295	209	666
税金等調整前四半期純利益	3,620	4,835	6,924
法人税、住民税及び事業税	1,027	1,670	2,035
法人税等調整額	98	△190	110
四半期純利益	2,494	3,355	4,778
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,494	3,355	4,778

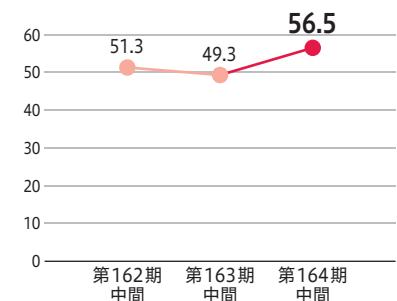
総資産 (単位:百万円)



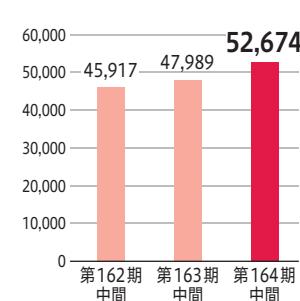
純資産 (単位:百万円)



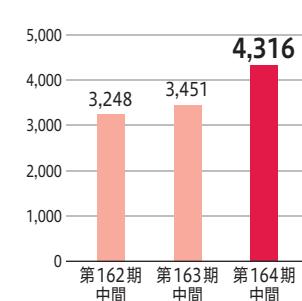
自己資本比率 (単位:%)



売上高 (単位:百万円)



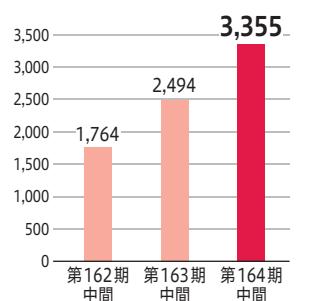
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



四半期純利益 (単位:百万円)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,853	4,657	7,757
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,306	△2,521	△7,398
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,044	△4,280	3,097
現金及び現金同等物に係る換算差額	196	185	5
現金及び現金同等物の増減額	9,788	△1,959	3,460
現金及び現金同等物の期首残高	20,532	23,993	20,532
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	30,321	22,034	23,993

中間配当について

2018年11月6日の取締役会決議により
1株当たり中間配当金を30円、支払開始
日を12月5日とさせていただきます。

(注)2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株
式併合を行っており、2013年度の期首に株式併合が行わ
れたものと仮定して配当金を計算しております。



株式の状況

発行可能株式総数 ----- 60,000,000株
発行済株式の総数 ----- 26,035,085株
株主数 ----- 4,801名

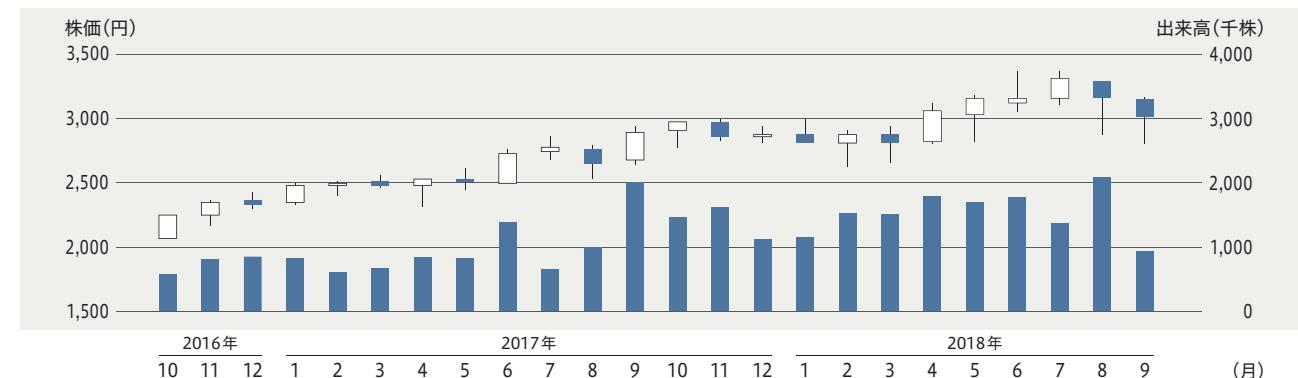
※2017年10月1日で株式併合(5株を1株に併合)を実施しております。

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,478	6.42
株式会社三菱UFJ銀行	876	3.80
株式会社福岡銀行	822	3.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	771	3.35
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	768	3.33
株式会社伊予銀行	748	3.25
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	700	3.03
帝人株式会社	678	2.94
株式会社みずほ銀行	669	2.90
日本生命保険相互会社	637	2.76

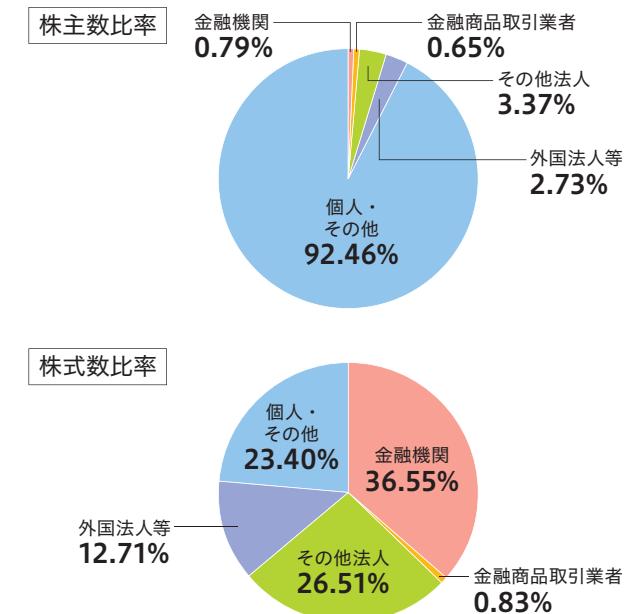
(注)1. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(3,001,168株)を控除して計算しております。
2. 2017年10月1日付で単元株式数の変更(1,000株から100株)および株式併合(5株を1株に併合)を実施しております。
3. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で三菱UFJ銀行に商号変更しております。

株価および出来高の推移



(注)当社は2017年10月1日で普通株式5株を1株の割合で株式併合しています。これにともない2016年1月1日に株式併合をしたと仮定して株価、出来高の推移を表示しております。

株主分布状況



(注)「個人・その他」には、当社の自己株としての保有分(11.53%)が含まれております。

社 名 ----- 株式会社大阪ソーダ
 OSAKA SODA CO., LTD.
 U R L ----- <http://www.osaka-soda.co.jp/>
 創 立 ----- 1915年(大正4年)10月26日
 資 本 金 ----- 15,087百万円
 連結従業員数 ----- 970名

子会社等の状況

国内

会 社 名	主要な事業内容
ダイソーケミカル(株)	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング(株)	電極の製造・販売、化学設備の設計・施工
サンヨーファイン(株)	医薬品原薬・中間体の製造・販売
(株)ジェイ・エム・アール	資源リサイクル
DSロジスティクス(株)	化学製品の運送取扱い
岡山化成(株)	化学製品の製造
サンヨーファイン医理化テクノロジー(株)	カラム・装置等の分析機器の製造
DSウェルフーズ(株)	健康食品素材の製造、加工販売
日東化工(株)	各種工業用ゴム・樹脂製品の製造・販売
(株)INBプランニング	ゴムコンパウンドの製造・販売

海外

会 社 名	主要な事業内容
三耀精細化工品銷售(北京)有限公司	カラム・装置等の分析機器の販売
DAISO Fine Chem USA, Inc.	医薬品精製材料の製造・販売
DAISO Fine Chem GmbH	医薬品精製材料、医薬品原薬・中間体の販売
大曹化工貿易(上海)有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
台灣大曹化工股份有限公司	機能化学品・電子材料等の輸出入
DAISO CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.	機能化学品・電子材料等の輸出入

役員(2018年12月1日)

[取締役・監査役]

代表取締役 会長	佐藤 存
代表取締役 社長執行役員	寺田 健志
取締役 常務執行役員	赤松 伸一
取締役 常務執行役員	堀 登
取締役 上席執行役員	古川 喜朗
取締役(社外)	福島 功
取締役(社外)	二村 文友
常勤監査役	瀬川 恭史
常勤監査役(社外)	谷口 隆治
監査役(社外)	森 真二

[執行役員]

執行役員	平地 勤
執行役員	平井 直
執行役員	小西 淳夫
執行役員	門屋 純一
執行役員	植田 祥裕
執行役員	高野 早人
執行役員	北野 智之

